

# 公教育を見直す 母語「日本語」の 力を養ってこそ

世田谷区教育委員会教育長 若井田正文



若井田正文——わかいだ・まさぶみ  
昭和25年東京都生まれ。都立高校数学科教諭、NHK教育テレビ数学講座講師を経て、都教育庁指導主事、同統括指導主事、世田谷区教育委員会教育指導課長などを歴任し、平成16年4月教育長に就任。

全国初の試みである

東京都世田谷区の教科「日本語」の授業が大きな注目を集めている。

小学校一年生の段階から教科書には

『論語』などの古典や漢詩、短歌、俳句などを多数盛り込み、

子どもたちは喜々としてそれを朗読し、

暗記する。いまなぜ子どもたちに

日本語を教えるのか。

その目指すところは何か。教育長の

若井田正文氏にお話を伺う。

して学校のよさを再発見したりしています。

私たちのかけがえない宝である「日本語」は、日本の文化とともに受け継がれてきました。子どもたちが、言葉の大切さに気づき、言葉を通して深く考え、自分を表現して心を通わせる喜びを知り、

日本文化を大切にして、新たな文化を創造してほしいという願いから始まったこの取り組みが、少しずつ実を結びつつあることを嬉しく思っております。

世田谷区における言葉を大切に

する教育活動は、十五年度「美しい日本語を世田谷の学校から」という取り組みで始まり、

言葉は、考え表現する基盤です。当時、区の教育指導課長だった私は、学校のすべての教育活動を通して、言葉に関心をもち、言葉を大切にする

ことによって、子どもたちの深く考える力、自分を表現する力、日本文化を理解し継承する態度を育てたいと考えました。

私は、学力低下問題についても、一見遠回りのようでも、すべての知的活動の基盤である言葉の力を高めることが最も重要であると考えています。また、言葉を通して

コミュニケーションを深めていくことは社会性を育みます。全人教育の視点から、この取り組みを始め、言葉を大切にする活動を世田谷から日本全国に広げたいと願い、名称を「美しい日本語を世田谷の学校から」としました。

この取り組みは、いまも全区立学校で続いており、朝の挨拶から始まり、校長先生の季節感に富んだお話、読書の充実、三分間スピーチなどの表現活動、詩の暗誦、昼休みにおける校内放送による朗読、校内の掲示物の工夫など、各々が工夫をして取り組んでいます。特に昨年度からは、「美しい日本語を世田谷の学校から週間」という一週間をどの学校も設置し、保護者への啓発活動などにも力を入れています。

子どもたちは将来、いまの大人たちと比較にならないほど、世界の多くの人々と接したり、一緒に仕事をしたりするようになると思います。ですから、この取り組みのねらいを別の言葉で表現すれば「深く考えることによって豊かな自己をもち、それを表現する力と、日本人としてのアイデンティティをもつて、多様な文化と言語の国

際社会の中で世界の人々とともに生きることのできる子どもを育てたい」と言えると思います。

そして、その翌年度十六年四月に、私は教育長に就任し、世田谷区における今後十年間の教育の方向性を示す「世田谷区教育ビジョン」を策定いたしました。

母語である日本語を通して、「深く考え、自分を表現することができ、日本文化を理解し継承する子ども」を育てることをねらいとする、新たな教科を設置する施策を教育ビジョンに位置付け、内閣府に構造改革特区として「世田谷『日本語』教育特区」を申請し、十二月に認定されました。その後、約二年の準備期間を経て、十九年四月から、全区立学校で、小中学校の九年間を通じた教科「日本語」の授業が始まったのです。

ところで、よく「なぜ『国語教育特区』ではないのですか」という質問が寄せられます。大きく言えば、二つの理由があります。

一つは、教科「日本語」の内容が学習指導要領に定められた「国語」の内容だけでなく、社会的・数学的な内容なども含み、教科横

断的な内容になっていることです。二つ目の理由は、学習指導要領で定められた「国語」と違って、小学校一年生から多くの古典に触れさせるとともに、漢字も多用していることです。いわば、総合的な日本文化の学びだからです。

## 区独自の教科書ができるまで

教科「日本語」の導入に当たって、区教育委員会では、区独自の教科書（文部科学省検定教科書ではないので、正確には教科用図書）を作成しました。小学校は低学年、中学年、高学年用の三冊、中学校は「哲学」「表現」「日本文化」の三冊です。内容については改めてご紹介いたしますが、教科書ができあがるまではずいぶん苦労しました。

特区が認定された翌年、学識経験者や区立学校の校長先生を委員とする検討委員会を設置して、教科書づくりの基本方針などを検討していただきました。委員長は、前筑波大学長の北原保雄先生です。先ほど述べたねらいを基に検討していただき、「論理的思考力を身に付ける」「課題発見・解決能力を



## 美しい日本語を 世田谷の学校から

世田谷区では、すべての小中学校九十五校で、平成十九年四月から世田谷区独自の教科「日本語」の授業に取り組み始めました。

小学生は、古文、和歌、俳句、漢詩などの古典に触れ、大きな声で音読しながら、日本語の響きやリズムを楽しんでいます。また、中学生は「哲学」の授業で深く考えることを経験したり、「表現」の授業で学校のコマースシャルを作成